

Sankka

讃歌
秋号

京都九条病院 Communication Book

◎特集① 循環器内科

心血管センター長に聞きました。

リスクファクター(危険因子)を適切に管理、治療することによって心不全の予防につとめています。

◎特集② 精神科・心療内科

介護事業部 統括医師に聞きました。

高齢者・認知症の方が安心して暮らせるように、医療・介護と地域が連携した途切れない支援とサポートを行なっています。

◎「LIVE」セッション広場

○知つてよかった「お薬豆知識」講座(第27講目)

○暮らしの中で病気予防「健康ライフ」講座(第36講目)

○ドクターの「プライベート拝見」数珠つなぎ(第49弾)

○私の病院自慢あれこれ(第49回)

◎院内散策④

○脳卒中市民講習会



循環器内科
心血管センター長 清水眞澄



院長 山本重水

vol.49
2018 Autumn
秋号

特集

1

循環器内科
心血管センター長に聞きました。

リスクファクター（危険因子）を適切に管理、治療することによって心不全の予防につとめています。



Masumi Shimizu

京都九条病院 循環器内科 心血管センター長 清水 眞澄

京都九条病院に着任して5年目にさしかかろうとしています。この間に、Pillips製の最新アンギオ装置の導入、また常勤医が2名から3名へ増員されたことなどにより、徐々に循環器診断・治療の環境が充実してきています。特に、最新アンギオ装置の導入によって、旧来の装置に比較してより鮮明

な画像解析が行えるようになり、患者さんの被曝量も半分以下に低減され、いっそう負担の少ない治療が行えるようになりました。心血管の治療では、着任当時より年間300症例の治療を施行しており、地域の方々に安心・安全な医療を提供できるように常に取り組んでいます。

心カテ件数の推移



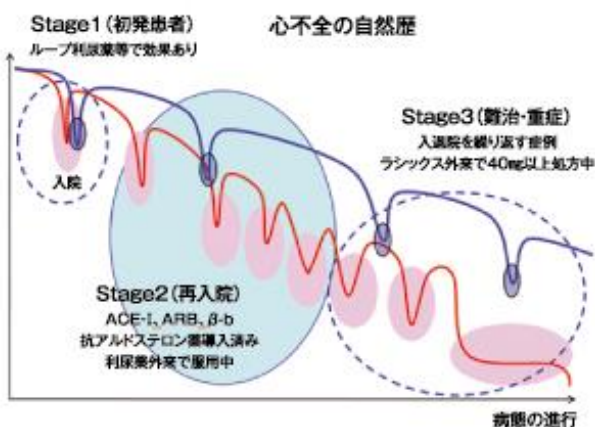
PCI術 臨床(皮膚)線量比較

50%以上の低減

旧装置	透視時間 (min)	総皮膚線量 (mGv)	新装置	透視時間 (min)	総皮膚線量 (mGv)
	平均	15.3		1020.5	平均
最大値	121.3	6603.0	最大値	132.6	2021.7
最小値	3.5	119.0	最小値	2.0	40.3
中央値	12.2	714.0	中央値	14.1	329.9

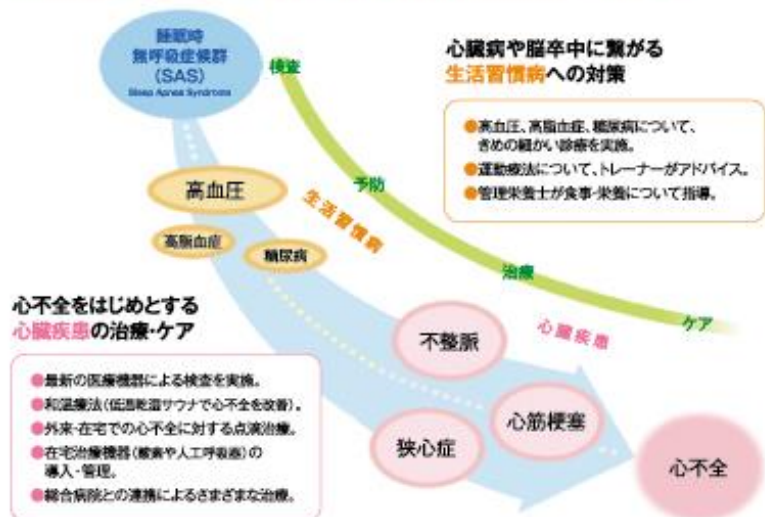
近年は、高齢化社会の到来とともに心不全患者の増加が社会問題視されつつあります。心不全の患者さんは、年に1万人程度の増加が全国的に認められており、当院でも昨年度より心不全による入院患者さんが増えています。心不全とは心臓のポンプ機能が低下して、全身の臓器に必要な量の血液を送れなくなる状態をいい、虚血性心疾患や心筋症、弁膜症などのさまざまな症候群の総称です。心不全は一度発症し、再発すると予後が坂道を転がっていくように低下するので、再発を予防することが重要です。そのため、高血圧、糖尿病、脂質異常症をはじめとするリスクファクター（疾患を発症させる確率を高める危険因子）をしっかり診断・治療し、管理するのがもちろん、潜在的に心不全の発症要因に強く関与する不整脈、睡眠時無呼吸症候群（SAS）の診断および治療にもウェイトをおいています。不整脈には、徐脈性不整脈（脈が遅くなる不整脈で、1分間の脈拍が60未満になる状態）と頻脈性

心血管病の発症予防、および心不全再発予防に力を入れています



当院での急性心不全入院患者数の推移





不整脈(脈が速くなる不整脈で、1分間の脈拍が100回を超えることがある)があります。徐脈性不整脈に関しては通常、ホルター心電図(24時間の心電図波形を記録するもの)で記録をとりませんが、このホルター心電図で正確な記録が取れない場合、とくに原因不明の失神や意識消失を起こしたことがある人に関しましては、長期の検査を続けると不整脈が原因かどうか診断できないため、植え込み型のループレコーダ(不整脈診断器

具)を導入し、数週間、あるいは数ヶ月の間の記録を取り、これに基づいて適切な診断を行なっています。また、類脈性不整脈の患者さんに對しては、月一回の不整脈外来を受けていただき診察・治療を行っています。

一方、睡眠時無呼吸症候群(SAS)の人は循環器疾患の発症リスクが非常に高く、そうでない人に比べて高血圧になる率が2倍、冠動脈疾患は3倍に、脳血管障害は4倍に、さらに心筋梗塞の発症は4倍にもなります。

ところが、日本には睡眠時無呼吸症候群の患者が推定200万人もいるといわれ、積極的な対策が求められています。当院では、睡眠時無呼吸症候群の疑いで来院された患者さんに対し、昨年からは簡易モニター検査に加えて、1泊2日入院してPSG(終夜睡眠ポリグラフィ検査)を受けてもらう体制を整え、約30人に

CPAP(経鼻的持続陽圧呼吸療法)による治療を行っています。このように、治療主体の循環器医療から予防医療にも積極的に力をいれることで、地域でのさらなる循環器疾患の増加および発症予防に貢献できるように日々研鑽を積み重ねています。また地域の診療所、病院の先生方とも勉強会や研究会の開催等を通じて緊

密な連携強化を図り、短期入院による心疾患を持った患者さんの投薬の調節等、個々の症例に応じたきめ細かなフォローを心がけています。こうした連携により、当院で検査を受けた入院された患者さんが地域に戻られる時も、負担なくスムーズに地域の診療所、病院での治療に移行していただけます。

循環器内科・心血管センターでは、高い専門性・実績を備えた医師が、最新の技術・治療法によって適切な治療を行なっていますので、安心して診察・治療を受けていただくことができます。当院では24時間オンコール体制をとっており、胸が痛い、息苦しい等はもちろん、ささいなことでも気軽に相談ください。特に循環器疾患の場合、軽い症状でも命の危険性を伴うことがあります。治療が遅れると寝たきりになる場合もあり、早期診断・治療が何より重要です。心配な時は、昼夜を問わずいつでもご来院ください。

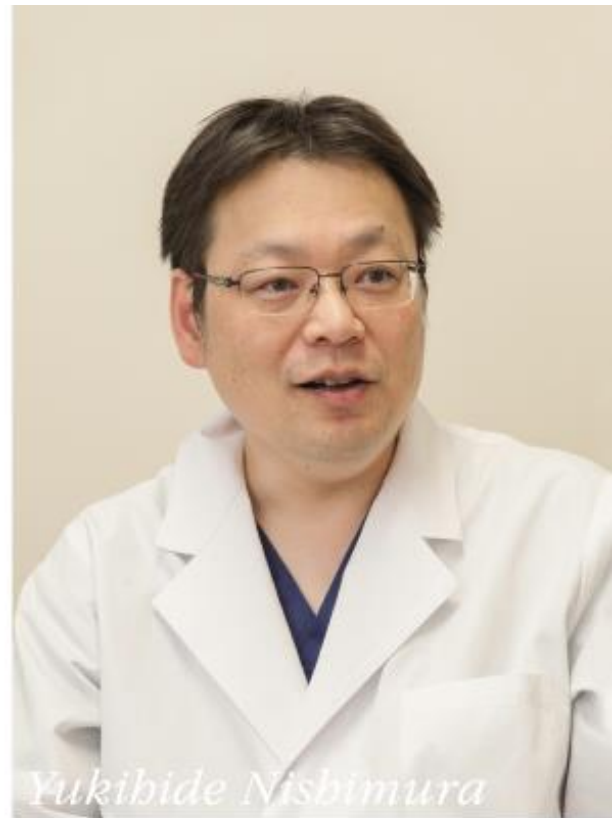
心血管の治療の進歩に対応し、より安全性の高い治療を提供しています

動脈硬化が進み、心筋梗塞や狭心症を発症する危険性が高いと診断された場合は、カテーテルによる治療を行っています。ステント(金属製の網でできた筒)を用いたカテーテル治療には当初、少ないながらも再狭窄を起こすという問題がありました。再狭窄を防止する薬剤が塗布されています。ステントが血管に挿入された後、その薬剤が溶出されるようにしたステントの進歩により、今では数パーセント程度にまで軽減されています。

さらに、薬剤溶出ステントの再狭窄予防の薬およびステントのプラットホーム(デザイン)、ポリマー(プラスチック)等の進歩、そして近い将来消えるステント等が導入される可能性に対応できるように、当院では3種類の最新式血管内超音波装置およびOCT(光干渉断層法)によって血管内の病変形態をより正確に詳細に観察できる体制を整えており、日常の治療においてもほぼ100%に適用しております。また必ずしも冠動脈が細いからといって病気(虚血・血流障害)があるわけではないため、狭心症などの虚血性心疾患が疑われる場合にはIFR(瞬時血流予備量比)、FFR(心筋血流予備量比)を用いて、狭窄によってどのくらい血流が阻害されているかを精査し、そ



Philips製の血管造影X線診断(アンギオ)装置



京都九条病院 精神科・心療内科 介護事業部 統括医師 西村 幸秀

特集

2

精神科・心療内科
介護事業部 統括医師に聞きました。

高齢者・認知症の方が安心して暮らせるように、医療・介護と地域が連携した途切れない支援とサポートを行なっています。

適切な精神科リエンソンによって入院中の心身機能低下を軽減

京都九条病院はこれまで急性

期医療を中心に長年、地域医療に貢献してきました。地域の中で高

齢者が増え、認知症やその予備軍の方も多くなってきたことから、そうした患者さんに対応するため精神科・心療内科を設け、ケア・サポートに取組んでいます。

精神科・心療内科では、入院に伴うさまざまな精神症状の対応、治療を行なっています。入院患者さん

の中には、環境の変化やストレス、治療に対する心配や不安によって、せん妄を発症する場合があります。

せん妄とは意識障害の一種で、性別・年齢に関係なく誰にでも起こり得るものなのですが、高齢者では症状が出やすいという特徴があります。こうしたせん妄を発症した場合にも、適切に診療し症状をやりわらげ、入院から退院までの時間をリハビリテーションをはじめ日常生活に戻すための取組みに専念していただくことを目指します。また、入院によって不眠になる方もおられます。夜によく眠れず昼夜逆転の生活になったりすると、リハビリもうまく進みません。私は精神科・心療内科の医師として、こうした問題を解決し、患者さんに安心して入院生活を送っていただくためのお手伝いをしています。

医療・介護を中心に多職種が連携し、チームで包括的、継続的に行う支援体制を「精神科リエンソン」といい、高齢者や認知症の方も院内で安心してすごしていただくことを目指します。

医療と介護をつなぎ、高齢者・認知症の方の意思決定のサポートを

の考え方を持った認知症サポート医が地域に出ていくことは、在宅医療・介護を進める上で大切なことだと考えています。

そして同仁会の介護老人保健施設にも定期的に訪問しています。病院から老健に入られた場合、環境が変わって認知症やその予備軍の方がせん妄を発症したり、認知障害が悪化することもあるので、そうした方の対応も行なっています。

私は介護事業部統括医師としてこの仕組みづくりに取組むとともに、認知症サポート医として在宅での医療・介護にも携わっています。認知症サポート医の主な役割の二つは、地域での在宅医療・介護を支えているケアマネジャーや看護師、介護スタッフなどにアドバイスを行うことです。

「精神科リエンソン」の考え方に基つき、とぎれない医療・介護を



当院ではこのような患者さんに入院前から入院中、退院後まで、とぎれなくケア・サポートを行うための仕組みづくりを進めています。

現在は、訪問リハビリのスタッフと一緒に患者さんのお宅を訪問し、リハビリ会議に参加して、認知症への備えや、注意点を含めて助言をしたり、必要に応じてかかりつけ医との連携などを行っていただきます。ご家族さんも医師が訪問して会議を行うことで安心していただけますし、認知症ケアや地域連携

今、医療・介護の現場において課題となっているのが、高齢者・認知症の方の「意思決定支援」の重要性です。高齢になるといろんなことを自己判断することが難しくなってきました。とはいえ、高齢だから認知症だからと、本人が受けたくない医療・介護をしてもよいのかといえば、そうではないことが多いです。だからこそ、高齢者の方が自分の意思を決定することについてどうサポートしていくかが重要となってくるのです。本人の意思を尊重して治療を進めていくには、医療と介護をつなぎ、その中でいろんなことを決めていくことが大切だと考えています。在宅で支援されていたご家族やケアマネジャーなどから情報を得ることも重要です。入院してからどうい治療をするのかを理解と認識をしていただき、安心して治療を

OUR HOSPITAL CONCEPT

京都九条病院の基本理念

良質な医療を安定的に提供します。
さらに常に最大限最高の医療の提供を目指す
前向きな姿勢を持ち続けます。

OUR HOSPITAL POLICY

京都九条病院の基本方針

- 1 医療は患者さまとご家族と医療者が協同して行うものと考えます。
- 2 「奉仕の精神」を持ち、親切な対応、サービスの向上を心がけます。
- 3 公平・公正で良質な地域医療を、安定的に提供し続けます。
- 4 急性期医療に24時間対応し、専門性の高い高度医療を充実させます。
- 5 治療に関する情報はすべて患者さまに開示し、分かり易く説明します。
- 6 最先端の予防医学・健診技術を用い、「地域の人々の健康」に貢献します。
- 7 地域支援の中核として活動し、トータルヘルスクエアを進めます。
- 8 各種研修指定施設として、高い技能を持つ人材を育成します。

「患者の権利」に関する宣言

京都九条病院では、患者さまの個人としての尊厳が守られ、より良い信頼関係の深まりとともに安心して医療が受けられるように、患者さまの権利に関する宣言を掲げます。

- 1 患者さまは、その社会的経済的地位・国籍・人種・宗教・年齢・性別・病気の種類によって差別されることなく、平等な治療を受ける権利を持っています。
- 2 患者さまは、自由に医療機関を選ぶ権利を持っています。
- 3 患者さまは、十分な説明を受けた上で、治療を受ける権利あるいは治療を受けることを拒否する権利を持っています。
- 4 患者さまは、医療のどの段階においても別の医師の意見を求める権利を持っています。
- 5 患者さまは、医師ならびに医療従事者が患者さまについて知り得たすべての医療上の情報及び個人的情報が保護される権利を持っています。
- 6 患者さまは、いかなる状態にあってもその人格を尊厳され、また尊厳をもってその人生を全うする権利を持っています。

私達京都九条病院職員は、患者さまの権利を尊厳し、十分な相互理解をもって、患者さまが最善の治療を受けられるよう最大限努力をします。私達京都九条病院職員は、良質な医療を提供し続けるために、常に前向きに努力することを誓います。

医療と介護をつないで意思決定サポートの質を高める



本人の意思決定を尊重した、地域包括ケア・多職種連携の中での意思決定

(一般社団法人 日本意思決定支援推進機構より)

受けてもらうことも大切です。そのためにも、医療と介護の連携を強化する取り組みを行っています。

多職種の人が有機的に連携し、地域全体で高齢者を支えていく意識が必要

京都でも高齢者が増えており、そのうち認知症の方とその予備軍の方を合わせると20万人くらいになるといわれています。認知症というと、かつては長期入院される方も多かったのですが、今はしっかり治療して、地域に戻って生活してもらうというように変わってきました。

こうした認知症の方が介護などを必要とするようになってくると住み馴れた地域で生活していくためには、地域の包括的なケアシステムが必要で、京都府では「新・京都式オレンジプラン」を策定し、このプランの展開を推進しています。



(京都地域包括ケア推進機構より)

平成23年には、京都地域包括ケア推進機構が設立され、「認知症総合対策推進プロジェクト」、「地域におけるリハビリ支援プロジェクト」、「看取り対策プロジェクト」が三大プロジェクトとなりました。その目的である「認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で暮らし続けられる社会」の実現に向けて取り組むとともに、京都府医師会をはじめとする京都地域包括ケア推進機構の構成団体との連携強化が図られています。

地域包括支援センター等が中心となり認知症の患者さんとご家族の支援をしています。これからは地区医師会とかかりつけ医の先生方をはじめ、医療・介護・福祉・行政が連携して支えていくことはもちろん、地域の住民のみならずも含め幅広い人たちの協力が必要となつてきています。

例えば、高齢者が詐欺にお金を取られる問題を防ぐには、コンビニや地域の商店街、金融機関などの協力が重要です。運転免許の自主返納などでは警察が、成年後見制度をめぐっては法律の専門家の協力が必要です。近年は、多職種連携の重要性が認識されるようになり、京都地域包括ケア推進機構のプロジェクトに銀行や裁判所関係、弁護士や司法書士なども協力してくれるようになりつつあります。

何らかの役割をもって地域全体で支えていくという意識が大切と考えています。



(一般社団法人 日本意思決定支援推進機構より)

MEDICINE
for **H**EALTH

知ってよかった「お薬豆知識」講座④

講師 京都九条病院 薬剤部
医薬品情報管理室課長 薬剤師
國永 智昭
Tomoaki Kuninaga

加熱式たばこや
電子たばこの
健康への影響は？



煙が出ない加熱式電子たばこが人気です。アイコス、グロ、ブルーム、テックなどが国内で販売されています。日本たばこ産業によれば、紙巻きたばこの販売量は毎年減少している一方で、加熱式たばこのシェアは拡大しており、現時点では市場全体の20%ほどを占め、2032年には30%を超える見込みです。

健康に悪影響がもたらされる可能性があり、使用者が呼出したエアロゾルは周囲に拡散するため、受動喫引による健康被害が生ずる可能性があると考えられています。そのため従来の燃焼式たばこと同様に、すべての飲食店やバーを含む公共の場所、公共交通機関での使用は認められないという見解を表明しています。

者にとって肺炎にかかりやすく、また傷の治りが悪くなることもわかっていきます。最近では手術後の早期回復を目指した取り組みが盛んですが、当院でも消化器外科手術を対象にERASプロトコルを用いて早期回復に努めています。禁煙は手術後の早期回復のための術前準備の第一歩です。手術を控えている人は必ず禁煙して手術に臨むようにしましょう。



「タバコ」
りません。
科学的根拠はあ
りません。

さて、加熱式たばこは「煙が出ない、タールなどの有害物質が少ない」など紙巻きたばこに比べて健康被害が少ないというイメージがあるのですが、果たしてどうなのでしょう？

とはいえ、不適切な広告や宣伝から加熱式たばこが安全であると誤解している人もいます。たばこは、肺がんやCOPDなどの呼吸器疾患や心筋梗塞、狭心症などの循環器疾患、ほかにも様々な病気との関連があるので、疾患の予防のみならず治療においても禁煙は不可欠になります。また、たばこ病気の関連については周知の事実なのですが、一方で喫煙が手術後の合併症の危険性を増やすことはあまり知られていないのではないのでしょうか？

たとえば、喫煙者は非喫煙者に比べて肺炎にかかりやすく、また傷の治りが悪くなることもわかっていきます。最近では手術後の早期回復を目指した取り組みが盛んですが、当院でも消化器外科手術を対象にERASプロトコルを用いて早期回復に努めています。禁煙は手術後の早期回復のための術前準備の第一歩です。手術を控えている人は必ず禁煙して手術に臨むようにしましょう。

NURSING
for **H**EALTH

暮らしの中で病気予防「健康ライフ」講座⑤

京都九条病院
看護部外来

今年の寒さを
乗り越えるために、
ながら&ちょっぴり体操が
オススメ!!



日増しに寒さが厳しくなると来ますが、冷え対策はどのようになされていますか。季節に関係なくお困りの方は勿論、冬は仕方がないときあきらかに冷える方も、上手に工夫して今年の寒さを乗り越えましょう。

冷えの原因には色々なことが考えられますが、結果として「熱を作る事」「熱を逃がさない事」が不十分である為に身体が冷えて辛い状態を招く様です。ではどうすれば上手に熱を作り、それを逃さないように出来るのでしょうか。

炭水化物や蛋白質脂質が食物の3大栄養素といわれていますが、それらを体内で上手に活用する為にはビタミンやミネラルも不可欠です。また、旬の食材は栄養価も高く季節に応じた働きをしてくれるものが多いようなので上手に活用しましょう。一つの目安として1日に20種類の食材を摂取するといった方法もあります。

まずはバランスのよい食事を規則正しく1日3食とる事です。決まった時間に寝起きして朝に朝食、昼に昼食、夜は早目に夕食を摂る、この当たり前に過ぎることが実は大切なのです。バランスの良い食事や規則正しい食事は、熱を作ったり逃さないようにする身体の仕組みを直接的にも(ホルモンや自律神経等を介する等)間接的にも助けてくれるのです。

食事と同様に大切なのが運動です。適度な運動を行って加齢や便利な生活(身体を動かさずに目的が叶う生活)に伴う筋肉の減少防止・維持増強を図りましょう。筋肉は暖かい生体工場なので、これが多いと身体が冷えにくいのです。また、運動には手足の血管に温かい血液を流れ易くする、熱の放散や保持に関わる自律神経の働きを良くする等の効用もあります。運動の時間がとれない、運動は苦手だし面倒だ、と言われる方には、「ながら&ちょっぴり体操」を

お勧めします。TVを見ながら座って足踏み、歯磨きしながらスクワット、ちょっぴり歩幅を広げて歩く、バス停1駅分だけちょっぴり歩く、1階分だけちょっぴり階段で降りる等です。1日にすればわずかな運動でも積み重なると立派な運動効果が期待できます。



最後に、年末年始に向けて酒宴も増えてくると思います。アルコールは血管を拡張するので、そこを流れる暖かい血液から熱を逃してしまいます。飲み過ぎには注意して頂き、楽しく暖かいつとときをお過ごし下さい。



先日、ひさびさにゴルフコースへ。天候にも恵まれ気持ちの良いラウンドができて大満足でした。ただ費沢を言えば、ちょっと日差しがきつすぎたかな。



週一回の
ゴルフ練習で体力づくり。
普段は子どもと
過ごす時間を
大切にしています。

FACE
of DOCTOR

ドクターの「プライベート拝見」数珠つなぎ◎

京都九条病院 外科
名幸 義仁
Yoshibito Nakou



外来で外科の診療を行うとともに、消化器外科チームの一員として消化器系のがんなどの手術を行っています。京都九条病院のスタッフとともに地域医療に取組み、地域の方々の健康生活に貢献したいと思っています。

体力づくりを兼ねて、週に一回の割合でゴルフの練習に通っています。学生時代はバスケットをやっていたのですが、腰を痛めたこともあり、医師になってから体に負担の少ないゴルフを始めました。せっかく練習を重ねているので、月に一度ぐらいはコースも回りたと思っています。なかなか実行できず、それがちょっと物足りないですね。ハンデは秘密です。趣味として楽しんでいるのであまり気にしていないんですよ。あとスポーツ

観戦も好きですね。よく見るのはサッカーやバスケット。子どもと一緒に見ることも。まだルールはよくわかっていない様子ですが、スポーツが好きになってくれればいいなと思っています。

普段は2人の子どもと過ごすのが日課。たいいてい日は、お風呂に入れて、本の読み聞かせをしています。長男は来年から小学校に上がるので、最低限のことはと思い勉強も教えているんですよ。休日には公園に行き、一緒に野球をしたり、遊戯施設に連れて行ったりしています。こうした触れ合いが、私にとってのリフレッシュにもなっていますね。

LOVE
my HOSPITAL

私の病院自慢あれこれ◎

京都九条病院のいいところ。
こんなところがわたしたちの自慢です。

病院のいいところが好き!!

好きな言葉
favorite word

「相手の気持ちを思う」

渡邊 啓介
看護部 3階病棟



病棟の雰囲気があるので、患者さんの気分も明るくなっていると思います。もともと救急救命士として当院の救急外来で働いていたのですが、ケアの幅を広げたいと学校で学び、再入職しました。現在、3階病棟に勤務していますが、男性患者さんの中には女性スタッフに話しかくけいを感じている方もいて、私たちが活躍できる部分は大きいと感じています。これからもさらに病棟での経験を積み、ゆくゆくは救命士の経験も生かして救急現場に携わる仕事に就くのが目標です。

好きな言葉
favorite word

「一期一会」

八坂 智恵子
事務部 医事課



とてもやりがいのある仕事です。入職してまだ半年。覚えることが多く大変ですが、患者さんから「ありがとう」と言ってくると励みになります。対応の仕方は先輩方から学ぶことも多いのですが、コミュニケーション研修の接遇マナー講習も大いに役立ちました。職種に関係なくこうした講習を受講できるのはいいですね。来院された方に寄り添える受付を目指すとともに、気軽に相談しやすく、多くの患者さんに利用していただける病院づくりに貢献していけたらと思っています。

好きな言葉
favorite word

「思いやり」

桐生 里紗
薬剤部 薬剤師



誰とでも話しやすいところがいいですね。異なる種類のスタッフとも普段からコミュニケーションが取れているので、患者さんに関する情報がしっかり共有できます。退院される患者さんに薬を出す場合など、どのようにすれば自宅でも飲みやすいのか、粉状にするのがいいのか、また一回分ずつ袋に詰め方がいいのか、入院中の様子を看護スタッフから聞き、ご家族さんとも話し合ってお店しています。もっと病棟に出向いて患者さんと関わり、患者さんの立場に立って工夫していきたいです。

好きな言葉
favorite word

「持続」

鈴木 耕太
リハビリテーション部
スポーツ課 理学療法士



積極的に病棟外に出る活動をしているのが素晴らしい。理学療法士として、スポーツ医療チームK-SMARTと契約しているチームを定期的に訪問し、体のチェックやトレーニングの指導、食事のアドバイスなどを行っています。学生時代はバスケットをしていたので、バスケット選手の体の動きはわかるのですが、さまざまなスポーツ選手のリハビリをするには、日々勉強が欠かせません。心がけているのは、スポーツ選手であるなにかかわらず、その人の目標に添ったリハビリを提供することです。

『脳卒中市民講習会』

主催 京都九条病院



11月10日(土)、京都九条病院1階ロビーにて、「脳卒中市民講習会」を開催しました。これは、当院が脳卒中の周知・予防を目的として定期的に行なっているもので、今回も大勢の地域の方々に参加いただきました。

「講習会」では、平井脳卒中センター長の挨拶に続いて、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師が「脳卒中について」と題して、レクチャーを行いました。「脳卒中は増えている？減っている？」、「脳卒中の危険因子とは？」といった質問をクイズ形式で参加者の方々に投げかけながら、脳卒中の患者数が約117万人にも上ることや予防のポイント、さらには高血圧や糖尿病、喫煙習慣といった脳卒中の原因となりやすい危険因子を改善する必要性を訴えました。

次に、「冬にやるべき脳卒中对策」と題して、血圧は冬に高くなる傾向があることや意外に冬に脱水



症にかかる人が多いこと、さらにヒートショックの注意点、特にヒートショックが起きやすい入浴時の対策を紹介。医療相談員からは、どんな方が介護保険対象者なのか、介護保険でどのようなサービスが受けられるのか、さらに申請の方法など介護保険についての説明がありました。その後、理学療法士が運動の重要性・効果の説明と、参加者全員で「いますぐできる運動」を椅子に座ったままで実践しました。

最後に、平井脳卒中センター長からは「脳卒中の最新治療」と題して、カテーテルを使用したコイル塞栓術、また頸動脈ステント留置術や血栓回収療法



ロビーの一画に設けられた測定コーナーでは、多くの方が実際に血圧を測るなどして、自分の健康状態を確認されました。またカウンターに置かれたパンフレットの資料を持ち帰る方も多く、脳卒中に対する関心の高さがうかがわれました。

など、当院で行なっている脳卒中治療法についてご紹介。少しでも不安を感じたり、疑問があれば病院で診察を受けるよう、呼びかけました。

当院では、的確、迅速な治療の提供と並行して、今後もこうした「講習会」を継続開催していきたいと考えています。脳卒中を未然に防ぐためには、まず病気のことを正しく知ることが大切です。ぜひ皆さん、ご参加ください。

医療法人同仁会(社団) 京都九条病院

〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町10 TEL. 075-691-7121(代)

医療法人同仁会(社団)
介護老人保健施設 マムフローラ
〒617-0853 京都市長岡京市東海印寺裏ノ聖2-2 TEL. 075-958-3388(代)

医療法人同仁会(社団)
介護老人保健施設 マムクオーレ
〒601-8326 京都市南区吉野町南第40-3 TEL. 075-691-7755(代)

医療法人同仁会(社団)
介護老人保健施設 マムクオーレⅡ
〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町38 TEL. 075-694-6855(代)

医療法人同仁会(社団) 京都九条病院
訪問看護ステーション・マム
〒601-8454 京都市南区唐橋藤屋町16 TEL. 075-691-3820(代)

医療法人同仁会(社団) 京都九条病院
訪問リハビリテーション
〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町10 TEL. 075-694-6544(代)

医療法人同仁会(社団)
ヘルパーステーション マム
〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町38 TEL. 075-694-6822(代)

京都市唐橋地域包括支援センター
京都市唐橋地域包括支援センター 介護予防支援事業所
〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町38 TEL. 075-694-6222(代)

医療法人同仁会(社団)
居宅介護支援マムステーション
〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町38 TEL. 075-694-6566(代)

医療法人同仁会(社団)
ショートステイ マム
〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町10 TEL. 075-691-7667(代)

医療法人同仁会(社団)
同仁会クリニック
〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町30 TEL. 075-691-7766(代)

医療法人同仁会(社団) 同仁会クリニック(併設)
同仁会疾病予防研究所
〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町30 TEL. 075-691-5070(代)

医療法人社団 会館会
西京病院
〒615-0026 京都市右京区高麗辻4-39-1 TEL. 075-313-0721(代)

京都九条病院(提携) 同仁会クリニック(併設)
メディカルフィットネスクラブ SHIN-SHIN
〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町30 TEL. 0120-558-756

医療法人同仁会(社団) ホームページ www.dojinkai.com/